

巻頭提言

省エネ推進の主役は一人ひとりの生活者、
行動を広げれば未来への展望が開ける。

中上 英俊

環境計画研究所 会長
省エネルギー行動研究会 会長



これからの省エネ推進には技術開発などのハード面とともに、ソフト面である省エネ行動がますます重要になると語る中上英俊さん。その意義やポテンシャルについて伺いました。

持続可能な未来への切り札は
エンドユーザーの手に

今や省エネの推進は、地球規模の最重要課題となりました。目的は言うまでもなく地球温暖化を食い止め、持続可能な未来を実現することです。2015年12月に採択されたパリ協定は京都議定書以来18年ぶりの国際的な合意となり、日本を含む196カ国が、改めてCO2をはじめとする温室効果ガス排出量の大幅削減を誓い合いました。

日本における省エネへの取り組みは技術開発が先行し、生活者サイドの包括的な取り組み、つまり「省エネ行動」についてはまだこれからという状況です。省エネ行動とは、過剰な照明や冷暖房をやめてムダなエネルギー消費をなくす、高効率な機器に買い替える、機器が本来

の省エネ性を発揮するよう正しく使うなど、生活者一人ひとりが実践するさまざまな行動を意味します。東日本大震災を機に定着した節電の習慣も、省エネ行動の一例です。

砂取りゲームで賢く、
大きな省エネ効果につながる

生活者の行動が変われば、省エネは大きく前進します。私の研究所がお手伝いしている環境省の統計調査では、省エネ行動の実施率が高い世帯ほど、年間のCO2排出量が少ないことが明らかになっています(左上グラフ)。調査は戸建住宅と集合住宅で行いましたが、両方ともほぼ同じ傾向となりました。省エネ行動と言っても無理をする必要はなく、日頃から小さな工夫を積み重ねることが、大きなCO2排出量の削減につながるのです。

省エネ行動は、砂山に棒を立てる砂取りゲームにたとえることができます。ここで言う「棒」は、暮らしを意味します。つまり山の砂を一度に大量にとると棒は倒れてしましますが、賢く少しずつ削るように取れば倒れず、暮らしが破綻する心配も小さくなります。もはや単独のプロジェクトや技術開発だけで、大幅な削減効果を期待するのは無理があります。

これからは「賢くやる」省エネ行動を広げていくことが、最も現実的かつ効果的な方法となるでしょう。
**ガス事業から省エネ事業へ
パラダイムシフトに期待**

供給サイドであるガス業界には、省エネ行動を積極的にサポートしてほしいと考えています。ガスの販売という従来のビジネスモデルを見直し、省エネを付加価値としたサービスを事業の主軸にしていくことが求められます。たとえば各家庭に設置されたスマートメーターなどからは、生活者のエネルギー利用に関する多くの情報を読み取ることができます。こうしたビッグデータを活用すれば、これまでにないサービスの可能性が開けるでしょう。4月には都市ガスの小売全面自由化が実施されます。

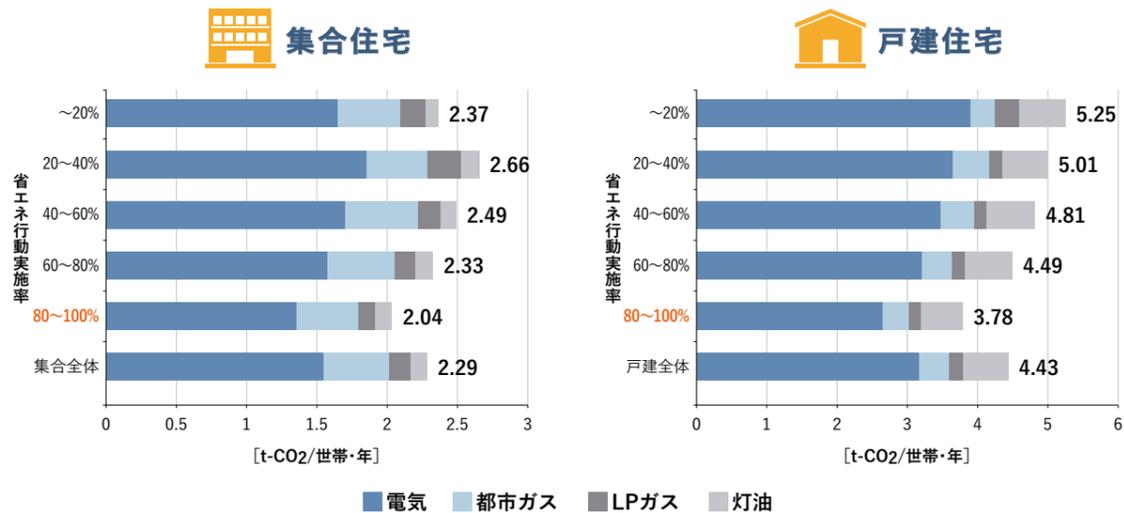
これを機に総合エネルギー事業者として、新たなステージを開拓してほしいと願っています。

供給サイドも参画した省エネ行動は、世界的な趨勢です。たとえばヨーロッパではガスや電力の事業者に生活者の年間エネルギー消費量を削減することが義務付けられ、その結果生じた売上の減少分は国が補償する仕組みが確立されています。

欧米では、エネルギーの分野で活躍する人材も多岐にわたっています。文化人類学や心理学といった理系以外の研究者も多く、会議の出席者の半数以上が女性というケースも珍しくありません。専門分野や業種の垣根を超えて、多様な視点から省エネ行動に取り組んでいるわけです。これに倣って立ち上げたのが、次ページで紹介する研究発表会議『BECC JAPAN』です。日本における省エネ行動推進の拠点として多くの皆さまに参加していただき、前進をしていきたいと考えています。

省エネ行動する世帯ほどCO2排出量が減少

全国の戸建住宅(約8,000世帯)と集合住宅(約3,700世帯)に、18項目の省エネ行動について調査。実施率が高い世帯ほどCO2排出量が減り、「80~100%」は全体平均より10~15%ほど少ないという結果になった。



環境省「家庭からの二酸化炭素排出量の推計に係る実態調査 全国試験調査 結果の概要(確報値)〈統合集計(参考値)〉」(2016年6月)をもとに作成

なかみひでし

博士(工学)。1945年生まれ。1973年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。環境計画研究所を創設。東京工業大学総合研究院 特任教授、早稲田大学環境総合研究センター 招聘研究員も務める。家庭におけるエネルギー需要構造の分析などの調査研究に取り組み。2014年、省エネルギー行動研究会を設立し、研究発表会議『BECC JAPAN』を毎年開催。